

おわりに

昨秋の大変多忙な時期に、各都道府県の連絡理事校を通して「思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅠ ―商業教育の質の向上を目指して―」と題したアンケート調査を実施させていただきました。各都道府県の連絡理事校を含む全国100校の校長先生方から有用な回答をいただくことができました。快くアンケート調査にご協力いただいた校長先生方に対して深く感謝申し上げます。

今回のアンケート調査では、授業観察の状況と授業改善のための校長の指導のあり方、商業高校では必須である資格取得指導の課題について各学校の校長先生方からご意見を伺いました。集計結果からは、多くの校長先生方が授業のねらいを明確に示して順序だてて分かりやすく教えることや、生徒を積極的に授業に参加させて学習意欲を引き出すことが大切であると考えていることが分かりました。単に知識を教え込むのではなく、その知識が実際に使われる場面、その知識の成り立ちや必要性を教え、生徒に深く考えさせる授業が大切であるという意見もいただきました。

さらに、授業改善の方策としては、社会の具体的な事例を取り上げたケース教材の使用や、生徒の思考能力の発達に合わせた反復学習、家庭学習、テスト等の実施など授業を工夫するとともに、定期的に教員同士が互いの授業を公開する機会を設け、常に改善を目指すなど教職員の研修が必要であるなどの意見が多くありました。

資格取得指導については、検定試験の合格が生徒の学力向上や学習意欲の向上に効果的に寄与している点を誰もが認めながら、一方で検定試験の合格が目的化してしまい、出題範囲をパターン化してプリント学習させるなど偏った指導の実態が課題として挙げられています。資格取得を生徒の学力向上や進路実現に資するものに高めていくためには、授業において実際に実務で活かされる場面を想定して、科目の基礎・基本から応用までを幅広く教える必要があります。

平成24年9月に中央教育審議会に高大接続特別部会が設置され、高校教育の「コア」に関する捉え方及び高校教育の質保証の仕組みの在り方をテーマに議論がスタートしました。「コア」の要素を含む資質・能力ということでは、商業高校においても生涯にわたって自ら学んでいく上で必要となる学力や職業分野での基本となる技術・技能など専門職業人としての基盤を確実に身に付けさせることがますます重要になっています。そこで、商業教育対策委員会では平成25年度の秋季総会・研究協議会において「思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅡ ―商業教育の質の向上を目指して―」と題して商業高校の質とその保証にかかわる研究協議を行う予定です。ついては、全国の校長先生方に再度アンケート調査をお願いして、商業教育の質の向上を目指して、各学校で実践されているさまざまな教育活動の取組を例示いただくとともに、商業教育の質をどのように捉え、質をどのように保証していくべきかについて資料を作成いたします。

巻頭言でお示ししたように本冊子には全国の商業高校で培われた英知がたくさん詰まっています。自由意見等でいただいた様々なご示唆もほぼ原文で掲載させていただきました。各資料を有効に活用いただき、各校及び各都道府県の商業教育の充実・振興の一助になればと願っています。